

ぬま

コミュ

Vol. 3

令和8年 3月

学校運営協議会は、本校の応援団です！今回は、「令和7年度の振り返り」と「学校にとっての地域とは、地域にとっての学校とは」という視点で意見交換がなされました。これまで取り組んできた活動を再確認しながら、無理なく持続可能な地域との関わりについて、多くの意見が出されました。特別支援学校を知ってもらうにはどうしたらよいか、情報の発信の仕方等について見つめ直す良い機会となりました。

学校にとって地域とは？

地域はお店や公園など、学校では用意できない学びの場である。

原地区のコミュニティだより「ふるさと」は月に1回発行される。学校行事等を「〇〇やります」と宣伝すると良い。地域の情報ツールを有効に使いたい。



交流会などの触れ合う機会があってもはじめはどのように関わったらよいのかが分からない。きっかけを作ってあげると子どもたち同士ですぐに打ち解け合うことができる。どちらかと言うと大人がハードルを高くしてしまっているのではないか。

委員の皆さまをはじめ、多くの方々にお世話になりました。一年間ありがとうございました。

地域にとって学校とは？

地域にとって学校は、伝統文化などを引き継ぐ場であると感じる。

近隣の小中学校のPTAを対象に学校見学会をやって、特別支援学校のことを知ってもらってはどうか。

安全という視点では仕方ないが、校門が閉まっている学校は閉鎖的に感じる。

高等部の生徒が外へ出て行って活躍する場があるとよいのではないか。11月のフェスでは、静岡銀行とハニーサクルと沼津特支のコラボ商品を販売した。産業×学校×金融の連携である。

清水町には柿田川がある。自然や水、環境に関する学習ができる。また、祭りや収穫祭もおこなわれる。清掃活動もおこなっているので、参加してもよいのではないか。

